

## 令和5年度第2回空知圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会議事録・要旨

日時：令和6年(2024年)2月5日(月)

13:30～15:00

場所：空知総合振興局5階会議室

出席者 穴澤地域づくり推進員  
佐藤委員、梅原委員、及川委員、風間委員、神田委員、田澤委員  
吉田委員、山本委員  
加藤地域づくりコーディネーター、小林地域づくりコーディネーター  
(事務局)橋本社会福祉課長、干場主査(地域福祉)、近藤専門主任

### 1 開会

### 2 特定事案

協議等の申し立てについて

事務局より、受け付けているものはないことを説明。

各委員からも協議等の申し立てがないことを確認した。

### 3 協議事項

#### (1) 講演

障がいを持つ方々への相談支援の現状について、社会福祉法人くるみ 地域生活支援センター「ぼぼろ」のセンター長を務める 田澤委員に講演をいただいた。

(講演内容は別添資料のとおり)

～ 公演後の委員協議 ～

(穴澤地域づくり推進委員)

講演ありがとうございました。

委員の皆様から田澤委員への質問などございますか。

(佐藤委員)

「ぼぼろ」を運営する事業費は、どのようなところから出されているのでしょうか。

(田澤委員)

中空知の自治体(市町)から相談支援の委託料をいただいております。

また、精神障がい者の支援では、北海道からの委託を受けています。

(梅原委員)

田澤委員のお話を聞いて、地域の住民との関わりが大切だと分かりました。

特に、地域に来て間もない方が、障がいを持つ方のことを知らないがために起きるといった点など、できるならば地域の住民自身が積極的に関わりを持つなどして、広い心で受け止められるようになれば良いと感じた。

(田澤委員)

障がいを持つ方への差別や問題などは、その人の障がいの特性を理解していると起こりやすく、知らないということが原因の多くを占めているように思います。

以前は、グループホームを開設する時に地域から反対されると言ったこともありましたが、現在はそのようなことが耳に入らなくなっており、良い方向に変化している部分も確かにあると感じています。

(穴澤推進員)

知らない事への怯えということもあるかもしれません。

また、ヘルパーさんなどの人材不足も深刻になってきていると思います。

(神田委員)

教育の現場でも、経験の浅い教師が障がいに対する理解が不十分であったり、地域そのものを支えている町内会も役員の確保が難しくなっていると聞く。

暮らしやすい地域づくりには、多くの課題があると感じています。

(風間委員)

若い学生が介護福祉のコースを選択しなくなってきており、福祉の世界の魅力を発信していくことも課題の一つだと思えます。

(穴澤推進員)

ご意見ありがとうございます。

以前は、いわゆる箱物を立てて、施設入所一択の福祉サービスという面が強かったが、現在は、様々な障がいサービスが提供されるようになっていきます。

ただし、福祉サービスのニーズの増え方に対して、人材の確保が追いついていない姿となっており、担い手の待遇改善などの必要性を感じます。

(加藤コーディネーター)

田澤委員の講演の最後にあった、障がいがある方の地域生活を支えるためにという部分で述べられていましたが、福祉サービスの充実だけではなく、支援を必要としている人を見つける視点や公的サービスで賄いきれない支援の担い手に行政等と地域の連携は、本当に大切なことだと思いました。

本日は講演ありがとうございました。

(2) その他

(穴澤地域づくり推進委員)

委員会は例年、年に2回の開催としています。

次回のテーマにつきましては、今回の意見交換を踏まえ、地域づくりコーディネーターのお二人と事務局とも相談していきますが、委員の皆様方におかれましても、こうしたテーマはどうかということがありましたら、事務局までお知らせ下さい。

( 終 了 )